



文化的景観としての阿蘇草原に対する 「あか牛テロワール」理念の適用構想の研究

- 実施主体 横川 洋（九州大学名誉教授）
- 実施場所 熊本市の図書館・文化会館、阿蘇市の草原文化館・農家、西原村の役場、九州東海大学等
- 実施期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日



<背景・ねらい>

昨年度、G I（産地証明）とテロワール概念、および阿蘇文化的景観の意義について明らかにした。そのうえで、本研究では「くまもとあか牛」（テロワール）G I（地理的表示・平成30年9月）が阿蘇草原・農村の自立を促す可能性があるか、国民の文化財としての阿蘇農村の重要文化的景観登録（平成29年10月）はその価値を経済的にどう実現して地域活性化をもたらすか、若手農業者の積極的な意見（平成28年2月）はどのように実現されるか、『スマート・テロワール』（松尾雅彦著・平成26年12月）の思想は阿蘇にどのように適用できるか、などを明らかにしたい。

■実施概要

- ・研究活動の成果として、1～3の資料を作成した。
 1. 「文化的景観・コモンズ・社会的共通資本としての阿蘇草原」を支える人々の「生業と生活」像を実態調査と文献調査で明らかにした。文化的景観としての阿蘇草原はコモンズ、社会的共通資本でもあるという3つの社会的性格を持つことを確認し、阿蘇草原・地域社会を担う人びとの「なりわいと生活」を貫く誇り高い「職人魂」が資源保全的で地域社会保全的な意義をもつことを明らかにした。
 2. 阿蘇の若手農業者の意見交換会（阿蘇草原再生協議会で4回実施）で出た意見を阿蘇草原の上記3つの社会的性格に対応させて課題を整理したものであり、阿蘇の次世代を担う若手農業者に大きな期待がかけられていることを示すものである。これらの課題の実現で地域はさらに前進するだろう。
 3. 地域自立を目指すスマート・テロワール構想の基本情報である。

■実施体制

- ・協力者として高橋佳孝氏（阿蘇草原再生協議会会長）からいただいた支援が実に大きい。また、阿蘇草原再生協議会・牧野管理小委員会・合同会議などの幅広い参加者との意見交換から多くのヒントを得て研究活動を進めた。

■成 果

- ・本研究は平成30年度の研究テーマ「外に開かれた価値の地域循環論」からの展開とし「地域自立論」を研究する予定であったが、新型コロナウイルスの影響から2～3月に集中的に予定していた実態調査ができなかったため、現場の生きた情報を十分に反映できず不本意な結果にとどまった。
- ・他方、資料1「生業と生活」像は、草原保全・再生を担う人々の営み（職人魂をもったなりわい）が資源保全と地域社会保全に必要な人々の誇りを呼び起こすことを明らかにしたから、深いところから草原再生・保全に貢献するものと期待したい。

■実施者の感想

- ・やり残した課題であるスマート・テロワール構想も含んだ形で「阿蘇地域社会」像を描きたい。資料1「生業と生活」像を「前編」とするならば、これは「後編」に当たり、前編で描いた自立の人びとが躍動する地域社会像を求めるものである。現在その作業に当たっているが、課題の大きさにたじろぐこともしばしばである。